

第3次上尾市地域福祉計画・第6次上尾市地域福祉活動計画【総括表】

進捗状況

- A 順調(すべての指標が目標値達成)
 B 概ね順調(目標値達成した指標が半数以上)
 C やや遅れ(目標値達成した指標が半数未満)

No	基本目標 (大項目)	No	取組 (中項目)	進捗 状況	指標		
					目標 指標数	目標を 達成した 指標数	目標を 達成した 指標の割合
1	誰もが福祉サービス を利用しやすい地域 づくり	1	福祉サービスの充実と利用促進	B	10	6	60%
		2	すべての人を受け止める相談支援 体制の充実	C	9	4	44%
2	誰もが安心・安全に 暮らせる地域づくり	3	外出しやすい環境づくり	A	6	6	100%
		4	地域防災・地域防犯の推進	C	6	2	33%
		5	見守り・声かけによるつながりの 確保	B	6	3	50%
3	誰もが役割を持つ ことができる地域 づくり	6	支え合いの意識づくり	A	2	2	100%
		7	地域福祉活動の活性化と担い手 の育成	B	6	3	50%
合計					45	26	58%

第3次上尾市上尾市地域福祉計画・第6次上尾市地域福祉活動計画（指標評価）

基本目標 1：誰もが福祉サービスを利用しやすい地域づくり ― 取組 1：福祉サービスの充実と利用促進

【基本目標 1－取組 1】

(1) 指標の状況											(計画冊子：P53)
No.	指 標 名		(上段) 各年度目標値						達成度 評価	【令和4年度 (※参考)】取組内容とその評価・今後の方針等	【令和5年度】取組内容とその評価・今後の方針等
			R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	担当	指標の説明	(下段) 各年度実績値								
			R2	R3	R4	R5	R6	R7			
1	介護保険サービス利用者で在宅生活をしている高齢者の割合		—	—	77.5	78.0	78.5	79.0	○	コロナ禍が継続した影響で、在宅でのサービス利用率が上がったと考えられる。感染症による重症化リスクの高い方においては引き続き在宅生活を中心に生活することが推測される。	新型コロナウイルスについては、感染症法上の取り扱いが緩和されたが、感染症による重症化リスクの高い方においては、在宅生活を中心に生活したと考えられる。引き続き、重症化リスクの高い方を中心に在宅サービスを利用することが推測される。
	高齢介護課	介護保険サービス利用者のうち居宅サービス・地域密着型サービス利用者の割合 [%]	76.3	79.0	79.8	80.0					
2	サービス等利用計画作成人数 (障害児・者)		—	—	3,500	3,600	3,700	増加	○	計画相談支援事業所 (障害児相談支援事業所) において、専門職員によるサービス利用等計画の作成を行っている。適切なサービス利用につなぐため、継続して実施する。	計画相談支援事業所 (障害児相談支援事業所) において、専門職員によるサービス利用等計画の作成を行っている。適切なサービス利用につなぐため、継続して実施する。
	障害福祉課	障害福祉サービス、障害児通所支援を利用するにあたりサービス等利用計画を作成している人数 [人]	2,832	3,318	3,664	4,092					
3	ファミリー・サポート・センター提供会員数		—	—	260	265	270	増加	×	当事業では、援助を行いたい人「提供会員」、援助を受けたい人「依頼会員」の募集を社協ホームページや広報あげお等で広報活動を行い会員の拡充に努めた。分かり易く、見やすい情報に心がけたことや、センター職員・保健センターからの説明などで会員増加に繋がった。 コロナウイルス感染症予防のため、提供会員講習会は人数制限をして開催した。また、3年ぶりに交流会を開催し提供・依頼会員相互の交流を図った。交流会は1回のみだったこともあり、講習会を含め更に交流の場が必要である。	援助を行いたい人「提供会員」、援助を受けたい人「依頼会員」の募集を社協ホームページや広報あげお等で広報活動を行い会員の拡充に努めているが、援助を受けたいニーズがある一方で援助を行いたい提供会員の人材不足は継続的な課題となっている。次年度も提供会員募集に関する広報活動に向けて担当課である子ども支援課と連携して取り組んでいく。また、交流会の参加者が少なかったこともありニーズ調査の実施や小規模なミニ交流会等の開催を検討する必要がある。
	社会福祉協議会	ファミリー・サポート・センター提供会員数 [人]	264	255	257	249					
4	市公式SNS登録者数		—	—	23,500	25,000	26,500	28,000	○	市公式SNSの利用を広報あげおや市ホームページ等で周知するほか、イベントの際には来場者に直接SNSのフォローを呼びかけたことにより、令和3年度と比べSNS登録者数は2,330人増加した。今後は、イベント時に65周年記念缶バッチをプレゼントしながら、新規登録を促していく。	市公式SNSの利用を広報あげおや市ホームページ等で周知するほか、各窓口に設置できる周知用POPを全課に配布したり、イベント実施時にSNSをフォローした人にノベルティを進呈したりするなどの工夫により、令和4年度と比べSNS登録者数は2,040人増加した。今後もイベントなどを活用し、積極的に新規登録を促していく。
	広報広聴課	Twitter (総合、防災、子育て、教育) と市公式LINEの合計登録者数 [人]	18,239	21,426	23,756	25,796					
5	社協公式SNS登録者数		—	—	増加	増加	増加	増加	○	社協の事業や支部社協の活動、ボランティアに関する情報など、写真や動画を掲載しながら、積極的にタイムリーな情報を発信しました。 フォロワー数も700人を超え、様々な年代の方に関心をもってもらえている。今後も多くの方々に関心をもってもらえるような情報を、迅速に提供していきます。	社協の事業や支部社協の活動、ボランティアに関する情報など、写真や動画を掲載し、タイムリーな情報を発信した。(R3.4月開設以来 425件の投稿) フォロワー数も1,047人を超え、様々な年代の方に関心をもってもらえている。今後も多くの方々に関心をもってもらえるような情報を迅速に提供していきます。
	社会福祉協議会	上尾市社協公式Twitterの登録者数 [人]	未設置	190	710	1,047					
6-1	成年後見制度利用支援者数 (市長申立件数) (高齢者)		—	—	15	18	18	増加	×	成年後見が必要にも関わらず、本人や親族による申立が期待できない場合に、市長申立による成年後見等開始の審判請求を行っている。引き続き、認知症等により判断能力が不十分な人が制度を適切に利用できるよう上尾市成年後見センターと協働し支援していく。	成年後見が必要にも関わらず、本人や親族による申立が期待できない場合に、市長申立による成年後見等開始の審判請求を行っている。引き続き、認知症等により判断能力が不十分な人が制度を適切に利用できるよう上尾市成年後見センターと協働し支援していく。
	高齢介護課	市長による成年後見制度開始の審判請求申立件数 [件]	8	2	8	6					
6-2	成年後見制度利用支援者数 (市長申立件数) (障害者)		—	—	2	3	4	増加	○	市長による成年後見制度開始の審判申し立ての増加に対応した。引き続き上尾市成年後見センターと協働して市長による成年後見制度開始の審判申し立てを推進していく。	市長による成年後見制度開始の審判申し立ての増加に対応した。引き続き上尾市成年後見センターと協働して市長による成年後見制度開始の審判申し立てを推進していく。
	障害福祉課	市長による成年後見制度開始の審判請求申立件数 [件]	1	1	2	6					
7-1	成年後見制度利用支援者数 (報酬助成件数) (高齢者)		—	—	16	17	18	増加	×	成年後見制度の利用を必要とする認知症高齢者で、費用負担困難な人 (生活保護受給者、低所得者等) に対し成年後見人等の報酬を補助している。引き続き、制度を適切に利用できるよう上尾市成年後見センターと協働し支援していく。	成年後見制度の利用を必要とする認知症高齢者で、費用負担困難な人 (生活保護受給者、低所得者等) に対し成年後見人等の報酬を補助している。引き続き、制度を適切に利用できるよう上尾市成年後見センターと協働し支援していく。
	高齢介護課	成年後見人等の報酬に対する助成件数 [件]	9	4	4	4					
7-2	成年後見制度利用支援者数 (報酬助成件数) (障害者)		—	—	3	4	5	増加	×	規則改正を行い、令和4年度から高齢介護課と同様に市長申立てに限らず、親族申立てにも助成対象を広げた。上尾市成年後見センターとの協働により、引き続き成年後見人等の報酬助成を行っていく。	親族申立も助成対象とし、上尾市成年後見センターとの協働により、引き続き成年後見人等の報酬助成を行っていく。
	障害福祉課	成年後見人等の報酬に対する助成件数 [件]	2	3	2	2					
8	成年後見制度相談件数		—	—	450	500	600	増加	○	成年後見制度に関する相談 (電話対応804件・来所対応172件・訪問対応63件、新規相談者232名) に対応した。相談の半数以上が法定後見制度に関することだが、制度利用につながらない相談も1割を超えている。総合相談窓口としての役割もあり、各関係機関等と連携を図る。	成年後見制度に関する相談 (電話対応916件・来所対応100件・訪問対応129件、新規相談者145名) に対応した。研修・勉強会については9団体から依頼があり9団体実施した。市民向けに実施した「任意後見制度と遺言」には234名の参加があった。運営委員会を年2回、支援調整会議を毎月オンラインにて開催した。申立て支援・家族支援等、複数回の継続相談が増加している。各関係機関等と連携を取りながら、各種相談に対応していく。
	社会福祉協議会	上尾市成年後見センターにおける成年後見制度に関する相談件数 [件]	未実施	10	1,051	1,162					

（2）指標の達成状況

目標に達している指標	60%
------------	-----

（4）今後の方針等（次年度以降の方向性）

介護保険サービス、障害福祉サービス等の充実を図るとともに、イベントなどを通じてSNSの新規登録を促し、情報発信体制を強化する。また、成年後見制度に関する相談が増加していることから、各関係機関等と連携を図りながら受付体制の強化に努める。

第3次上尾市上尾市地域福祉計画・第6次上尾市地域福祉活動計画（指標評価）

基本目標 1：誰もが福祉サービスを利用しやすい地域づくり ― 取組 2：すべての人を受け止める相談支援体制の充実
（1）指標の状況

【基本目標 1－取組 2】
（計画冊子：P59）

No.	指 標 名		（上段）各年度目標値					達成度 評価	【令和4年度（※参考）】取組内容とその評価・今後の方針等	【令和5年度】取組内容とその評価・今後の方針等
			R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	担当	指標の説明	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
1	福祉の総合相談窓口の設置		－	－	設置	設置	設置	設置	○	令和5年4月に所管課を福祉総務課から生活支援課に変更。どの窓口相談したらいいかかわらないといった相談や、複合的な相談を受け付け、利用可能な制度や適切な相談窓口の案内を実施。今後も窓口についての周知を図り、相談業務を継続する。※令和5年度実施：初回相談件数482件、のべ相談件数689件
	健康福祉部（生活支援課）	さまざまな困りごとを気軽に相談できる窓口の設置状況	未設置	未設置	設置	設置				
2	民生委員・児童委員相談支援件数		－	－	3,400	3,400	3,400	維持	×	令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、活動を継続した。
	福祉総務課	民生委員・児童委員の相談支援件数〔件〕	3,435	3,433	3,198	2,775				
3	社協13支部における相談件数		－	－	15,000	15,000	15,000	15,000	○	13支部拠点では、住民が身近なところでも相談しやすいように、地域のコーディネーターを設置している。令和4年度では、ほとんどの支部拠点が週4日の開所を再開した。コーディネーターが常駐しながら、あったか見守りサービス事業の実施継続をするとともに、初期相談窓口及び地域の連絡所の機能を担い、地域住民や支部関係者、自治会関係者等との連絡調整を行えた。今後も各支部で広報紙を発行し、地域活動情報の発信をするとともに、見守り協力員の募集や支部拠点のPR強化に努める。
	社会福祉協議会	社協13支部における相談件数〔件〕	10,760	16,516	19,730	22,341				
4	地域包括支援センターにおける相談件数		－	－	61,000	62,000	63,000	増加	○	地域包括支援センターによる介護や生活等総合相談、権利擁護、実態調査、介護支援専門員（ケアマネジャー）に対する支援の実施のほか、介護支援専門員研修の開催や高齢者虐待防止アドバイザー相談等を実施している。
	高齢介護課	地域包括支援センターにおける相談件数〔件〕	57,253	60,852	59,366	62,232				
5	障害者生活支援センターにおける相談件数		－	－	15,000	16,000	16,500	増加	×	上尾市内4法人、市外1法人の計5法人に障害者生活支援センター業務を委託し、障害のある方からの生活相談、障害福祉サービス事業所等の利用相談、就労相談などに対し、必要な助言等を行っている。相談件数は増加傾向であり、引き続き実施していく。
	障害福祉課	障害者生活支援センターにおける相談件数〔件〕	13,372	14,770	16,360	15,777				
6-1	地域子育て支援拠点における相談件数（面接）		－	－	2,600	2,600	2,600	維持	○	ウィズコロナの流れとなり、利用者のコロナに対する意識も変わったことや、各拠点においても感染防止対策を実施しながら通常開設したことにより、面談による子育て相談が増加した。その一方で、コロナ前の相談件数（H29/2,621件、H30/2,361件）より大幅に増えており、コロナによる影響なども考えられるため、引き続き拠点と協力し、子育てについて気軽に相談できる環境を整える。
	子ども支援課	地域子育て支援拠点における面接相談件数〔件〕	2,295	2,563	4,139	4,016				
6-2	地域子育て支援拠点における相談件数（電話）		－	－	250	250	250	維持	×	面談での相談件数が増えたことにより、電話での相談件数が減少した。コロナに対する保護者の意識が変わり、外出する世帯が増えたことによるものと考えられるが、乳幼児を持つ保護者の中には、まだまだコロナに不安を感じている方もいることから、引き続き電話での相談にもしっかり対応できる環境維持に努める。
	子ども支援課	地域子育て支援拠点における電話相談件数〔件〕	313	248	125	128				
7	生活保護受給世帯の中学3年生の学習支援事業利用率		－	－	60	60	60	60	×	小学5年生以上の就学している対象者に、委託事業者による学習支援を行う。特に、受験学年である中学3年生の利用を重点的に勧める。令和4年度は、目標を上回る結果となった。今後も引き続き、家庭訪問を含めた利用勧奨を行う。
	生活支援課	生活保護受給世帯の中学3年生の学習支援事業利用率〔％〕	43	25	70	35				
8	生活困窮者に対する自立支援による就労・増収率		－	－	60	60	60	60	×	生活困窮者に対する、就労の支援を行う。令和4年度は、住居確保給付金や生活困窮者自立支援金と併せて就労を目指す場合が多かった。就労・増収率は、新型コロナウイルスの影響が大きかった前年度からの回復傾向が見られた。今後も引き続き、就労に向けた支援を行う。
	生活支援課	生活困窮者に対する自立支援による就労・増収率〔％〕	50	28	35	40				

（2）指標の達成状況

目標に達している指標	44%
------------	-----

（4）今後の方針等（次年度以降の方向性）

「ふくしの窓口」についての周知を図るとともに、各関係機関の相談支援体制を強化し、相談しやすい環境の整備に努めていく。
--

第3次上尾市上尾市地域福祉計画・第6次上尾市地域福祉活動計画（指標評価）

基本目標 2：誰もが安心・安全に暮らせる地域づくり　－　取組 3：外出しやすい環境づくり

【基本目標 2－取組 3】

（１）指標の状況

（計画冊子：P66）

No.	指 標 名		(上段) 各年度目標値						達成度 評価	【令和4年度（※参考）】取組内容とその評価・今後の方針等	【令和5年度】取組内容とその評価・今後の方針等
			R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	担当	指標の説明	(下段) 各年度実績値								
			R2	R3	R4	R5	R6	R7			
1	住宅改修給付件数（高齢者）		－	－	550	550	550	550	○	令和３年度同様、新型コロナウイルス感染症のリスクを踏まえた実績件数と考えられる。今後も、適正な理由から住宅改修が必要であると認められたものについて介護保険給付を実施していく。	在宅で生活する方が一定数いることからの実績件数と考えられる。今後も、適正な理由から住宅改修が必要であると認められたものについて介護保険給付を実施していく。
	高齢介護課	要支援・要介護認定を受けた人が居住している住宅の生活環境を整えるために改修した費用に対して介護保険給付をした件数〔件〕	540	631	601	634					
2	手話講習受講人数		－	－	増加	増加	増加	30	○	聴覚障害者の社会参加の支援や聴覚障害者の日常生活及び社会生活を保障するため、手話の普及・啓発、手話通訳者の養成を目的に、上尾市社会福祉協議会に委託し手話講習会を開催している。手話講習会を継続し、手話の普及・啓発に努める。	聴覚障害者の社会参加の支援や聴覚障害者の日常生活及び社会生活を保障するため、手話の普及・啓発、手話通訳者の養成を目的に、上尾市社会福祉協議会に委託し手話講習会を開催している。手話講習会を継続し、手話の普及・啓発に努める。
	障害福祉課	手話講習受講人数〔人〕	※コロナ禍未実施	25	34	42					
3	市内循環バス“ぐるっとくん”の利用者数		－	－	405,000	430,000	455,000	480,000	○	新型コロナウイルス感染拡大による行動制限が徐々に緩和されたことにより、利用者も増加に転じている。引き続き、コロナ禍前の水準となるよう利用者増を目指す。	新型コロナウイルス感染拡大による行動制限が徐々に緩和されたことにより、利用者も増加に転じている。引き続き、コロナ禍前の水準となるよう利用者増を目指す。
	交通防犯課	ぐるっとくんの利用者数〔人〕	344,353	382,168	420,195	444,371					
4	市内循環バス“ぐるっとくん”の利用者数（介助・障害者）		－	－	46,900	50,100	53,300	56,740	○	新型コロナウイルス感染拡大による行動制限が徐々に緩和されたことにより、利用者も増加に転じている。引き続き、利用者促進策・障害者割引運賃の継続を実施し、コロナ禍前の水準となるよう利用者増を目指す。	新型コロナウイルス感染拡大による行動制限が徐々に緩和されたことにより、利用者も増加に転じている。引き続き、利用者促進策・障害者割引運賃の継続を実施し、コロナ禍前の水準となるよう利用者増を目指す。
	交通防犯課	ぐるっとくんの利用者数のうち、介助者・障害者の数〔人〕	40,706	43,774	48,825	52,983					
5	訪問型サービスD（移動支援）		－	－	2	2	2	3	○	令和4年度に1団体増加。今後、地域の資源を把握しながら市内で活動希望がある団体に対して立ち上げ支援を行っていく。	令和4年度に1団体増加し現在に至る。今後、地域の資源を把握しながら市内で活動希望がある団体に対して立ち上げ支援を行っていく。
	高齢介護課	訪問型サービスD補助対象団体数〔団体〕	1	1	2	2					
6	短期車いす貸出件数		－	－	150	150	150	150	○	総合福祉センター、上尾西地域福祉センター、社協13支部拠点に配置し、車いすが必要な人に貸出しをしている。相談も多く、貸出し件数も増えていることから、一定のニーズがあることは明確である。必要とする人に情報が届くよう、情報発信に配慮していく。	総合福祉センター、上尾西地域福祉センター、社協13支部拠点に配置し、車いすが必要な人に身近な場所で貸出しをしている。相談も多く、貸出し件数も330件と増えている。一定のニーズがあるため、必要としている人に情報が届くよう、情報発信に努める。
	社会福祉協議会	短期（2週間以内）車いす貸出年間件数〔件〕	130	168	244	330					

（２）指標の達成状況

目標に達している指標	100%
------------	------

（４）今後の方針等（次年度以降の方向性）

市内循環バス“ぐるっとくん”をはじめとする、移動手段の充実を図るとともに、バリアフリー化・ユニバーサルデザインの推奨等、様々な観点から外出しやすい環境づくりを目指す。

第3次上尾市上尾市地域福祉計画・第6次上尾市地域福祉活動計画（指標評価）

基本目標 2：誰もが安心・安全に暮らせる地域づくり ― 取組 4：地域防災・地域防犯の推進

【基本目標 2－取組 4】

(1) 指標の状況										(計画冊子：70)	
No.	指 標 名		(上段) 各年度目標値						達成度 評価	【令和4年度（※参考）】取組内容とその評価・今後の方針等	【令和5年度】取組内容とその評価・今後の方針等
	担当	指標の説明	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
			(下段) 各年度実績値								
			R2	R3	R4	R5	R6	R7			
1	地域防災訓練の実施率		—	—	100	100	100	100	×	令和4年度はコロナの影響も少なくなった影響で、訓練実施数が増えた。今後も引き続き自主防災会の理事会等を通して、各地域での自主的な訓練の実施を依頼していく。	昨年度より更にコロナの影響も少なくなり、訓練実施数が増えた。今後も引き続き自主防災会の理事会等を通して、各地域での自主的な訓練の実施を依頼し、コロナ禍前の水準を目指す。
	危機管理防災課	市内自主防災会117団体のうち、地域防災訓練を実施した割合 [%]	94 (H31)	44	61	81					
2	避難支援等関係者への名簿情報・個別避難計画の提供に係る避難行動要支援者の同意件数		—	—	30	30	30	30	○	令和4年度は、新規対象者598人に勧奨通知を送付。49件の個別避難計画の提出があった。	令和5年度は、451人の新規対象者に勧奨通知を送付した。 R5実績：勧奨通知送付人数：451人 同意者数：57人
	危機管理防災課	避難支援等関係者への個別避難計画等の提供に係る避難行動要支援者の同意件数 [件]	※システム整備	33	49	57					
3	福祉避難所数		—	—	35	38	40	42	×	令和4年度は新たに協定を締結した福祉避難所となる施設は無かった。福祉避難所関連事務所管課（障害福祉課・高齢介護課）と協力しながら協定先拡充に努める。目標値達成に向けては、令和5年度以降、3～4箇所の協定締結を目指す。	令和5年度は新たに協定を締結した福祉避難所となる施設は無かった。福祉避難所関連事務所管課（障害福祉課・高齢介護課）と協力しながら協定先拡充に努める。目標値達成に向けては、令和6年度以降、3～4箇所の協定締結を目指す。
	危機管理防災課	協定を締結している福祉避難所の数 [箇所]	32	32	32	32					
4	災害ボランティア育成人数（累計）		—	—	140	160	180	200	×	災害復興支援や全国の被災地支援を行っているボランティア団体が講師となり、災害ボランティア養成講座を開催した。小学生から大人まで幅広い年齢層が集まり、関心の高さが伺えた。常日頃から災害に備えて準備・行動ができるように今後も講座等を開催していく。	災害復興支援や全国の被災地支援を行っているボランティア団体が講師となり、災害ボランティア養成講座を開催。40代～50代の年齢層が中心に集まり、講義・実技体験を行った。今後も講座等を開催していき、養成後の活動に結びつけていくように実施していく。
	社会福祉協議会	災害ボランティアの累計育成人数 [人]	97	※コロナ禍未実施	111	122					
5	市内における刑法犯認知件数		—	—	1,000	1,000	1,000	1,000	×	引き続き、刑法犯認知件数が減少するよう各犯罪情報の提供やパトロール活動の支援を実施する。	新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、人の動きが活発化した影響もあり、刑法犯認知件数が増加に転じたため、件数が減少するよう、引き続き各犯罪情報の提供やパトロール活動の支援を実施する。
	交通防犯課	市内における年間刑法犯認知件数 [件]	1,318	1,121	1,119	1,385					
6	消費生活相談件数		—	—	1,600	1,600	1,600	維持	○	消費者トラブル防止のため、広報や関係団体と連携し、相談から解決へとつなげていく。	消費者トラブル防止のため、広報や関係団体と連携し、相談から解決へとつなげていく。
	消費生活センター	年間消費生活相談件数 [件]	1,628	1,506	1,706	1,725					

（2）指標の達成状況

目標に達している指標	33%
------------	-----

（4）今後の方針等（次年度以降の方向性）

各地域での自主防災訓練の実施や福祉避難所等の拡充など、多面的な地域防災の取組を進めるとともに、地域防犯の支援体制の充実を図り、安心・安全に暮らせる地域づくりに努めていく。

第3次上尾市上尾市地域福祉計画・第6次上尾市地域福祉活動計画（指標評価）

基本目標 2：誰もが安心・安全に暮らせる地域づくり　－　取組 5：見守り・声かけによるつながりの確保

【基本目標 2－取組 5】

(1) 指標の状況										(計画冊子：P75)	
No.	指 標 名		(上段) 各年度目標値						達成度 評価	【令和4年度（※参考）】取組内容とその評価・今後の方針等	【令和5年度】取組内容とその評価・今後の方針等
			R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	担当	指標の説明	(下段) 各年度実績値								
			R2	R3	R4	R5	R6	R7			
1	上尾市見守りネットワーク加入企業数		—	—	160	163	166	169	×	令和4年度は1件登録があった。引き続き、高齢者に限らず、地域で暮らす全ての方々の生活に関連した登録事業者の増加を図る。	令和5年度は、設置当初のように事業所に出向き、登録をしていただけるよう働きかけてたが、登録事業者の増加には至らなかった。今後は企業だけでなく、地域に密着した個人事業主など、幅広い働きかけに努め、登録事業所の増加を図る
	福祉総務課	上尾市見守りネットワークへの登録事業者数 [社]	155	157	158	158					
2	見守り協力員数		—	—	140	160	180	200	×	コロナ禍で感染対策に十分留意しながら、人との出会いや顔を合わせる機会が減少した利用者の孤立やフレイル（心身の虚弱）が懸念されることから、活動者・利用者の状況把握に努めながら利用者の希望に沿った内容で見守り活動を実施した。令和4年度は16名の協力員が新規登録されたが、活動の辞退の申し出の方が多く、全体的には年々減少傾向になっている。今後も社協だよりや支部広報誌、事務区内での回覧などで周知し増員を図っていく。	R5年度は、利用者の安否確認がとれず、訪問をした結果、屋内で亡くなっていた事例あり。こうした事例に遭遇すると、地域での見守りの必要性はあるため、自治会単位での見守り活動を補完する意味合いも含め継続していく必要がある。また、各支部単位で協力員会議を開催し情報共有や実情に応じて地域包括支援センター職員及び、担当地区民生委員の参加を促し、顔と顔がつながることで相談や連携が図れるように取り組んでいる。協力員の拡充については、協力員の高齢化による理由で登録を辞退される方もいた中、社協会員会費のチラシや支部の広報誌、自治会での回覧など周知した結果、昨年度と比較し微増となった。
	社会福祉協議会	社協13支部における見守り訪問協力員数 [人]	145	136	130	143					
3	若者相談における若者本人が相談した割合		—	—	62	63	64	65	×	令和4年度は庁内外の担当部署と連携して支援を実施する仕組みづくりなど支援体制の強化を行いつつ相談に対応した。令和5年度は、新たにヤングケアラーや若者ケアラーの相談窓口を設置し、若者本人からの相談に繋がる周知啓発を推進する。	令和5年7月に「上尾市子ども・若者ケアラー支援の推進に関する条例」を制定し地域全体で子ども・若者の成長を支えるための環境づくりなどを推進した。また、ヤングケアラーコーディネーターの配置、市HPにヤングケアラー相談窓口等についての情報掲載や、小・中学校へのチラシや啓発カードの配布などを行った。指標の実績値は減少しているが、子ども・若者自立支援事業「ルームここから」の登録者数は36名（R4年度24名）と増加した。令和6年度は、ヤングケアラーについて周囲が気づくことで若者本人からの相談につながるよう支援者向けの研修を行う予定。
	子ども家庭総合支援センター	若者相談において若者本人が相談した割合 [%]	50	54	50	35					
4	オレンジカフェ（認知症カフェ）参加人数		—	—	600	700	800	維持	○	令和4年度は、徐々に集合型での開催に移行してきた。参加者は1,601人であり、多数の郵送対象者分を計上しているため参加人数が増加しており、また集合型で参加していた人数も増加傾向である。令和5年度以降は、全体の参加者の増加を図る中で、特に集合型での参加者の増加に努める。	令和5年度は基本的に集合型での開催ができた。参加者はのべ1,727人であり増加傾向である。令和6年度以降も引き続き集合型の開催を予定している。
	高齢介護課	オレンジカフェ（認知症カフェ）に参加した人数 [人]	246	1,286	1,601	1,727					
5	ピアサポート講座参加人数		—	—	30	30	30	30	○	令和4年度もコロナ禍の下、リモートによる開催を行った。引き続き、障害者相互の支えあい（ピアサポート）の促進を継続していく。	対面によるピアサポート講座を開催した。引き続き、障害者相互の支えあい（ピアサポート）の促進を継続していく。
	障害福祉課	ピアサポート講座に参加した人数 [人]	※コロナ 禍未実施	38	33	32					
6	こんにちは赤ちゃん訪問面会率		—	—	92.0	93.0	94.0	95.0	○	訪問件数は、令和4年度：1,275件 引き続き、面会率の向上を図り、養育支援が必要な家庭の把握と孤立の防止に努めている。	訪問件数は、令和5年度：1,357件 令和5年度は、出産・子育て応援事業の開始に伴い、訪問割合が大幅に上昇。引き続き、面会率の向上を図り、養育支援が必要な家庭の把握と孤立の防止に努めている。
	健康増進課	年間出生数に対して訪問員が生後4か月までの乳児と面会できた割合 [%]	92.6	90.2	91	98.7					

（2）指標の達成状況

目標に達している指標	50%
------------	-----

（4）今後の方針等（次年度以降の方向性）

見守り支援や孤立の防止などを推進するため、上尾市見守りネットワーク及び見守り協
力員数等の登録事業者数の増加に努める。また、ヤングケアラーについては、周知啓発
や研修通じて、若者本人からの相談につながるよう努めていく。

第3次上尾市上尾市地域福祉計画・第6次上尾市地域福祉活動計画（指標評価）

基本目標３：誰もが役割を持つことができる地域づくり　－　取組６：支え合いの意識づくり

【基本目標３－取組６】

(1) 指標の状況											(計画冊子：P81)
No.	指 標 名		(上段) 各年度目標値						達成度 評価	【令和4年度（※参考）】取組内容とその評価・今後の方針等	【令和5年度】取組内容とその評価・今後の方針等
			R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	担当	指標の説明	(下段) 各年度実績値								
			R2	R3	R4	R5	R6	R7			
1	近所付き合いについて「ほとんど（もしくはまったく）付き合いはない」（市民アンケート調査）		—	—	—	—	—	減少	—	取組6における市・社協の取組を通じて、「地域福祉」や「地域共生社会」への周知・啓発、意識の醸成を図る。	取組6における市・社協の取組を通じて、「地域福祉」や「地域共生社会」への周知・啓発、意識の醸成を図る。
	福祉総務課	計画策定時の市民アンケート調査結果 [%]	10.2	—	—	—	—				
2	地域活動やボランティア活動に現在参加している割合（市民アンケート調査）		—	—	—	—	—	増加	—	取組6における市・社協の取組を通じて、ボランティア・福祉教育の推進やボランティア活動の広報・周知を進め、市民の地域活動やボランティア活動への参加を支援・推進する。	取組6における市・社協の取組を通じて、ボランティア・福祉教育の推進やボランティア活動の広報・周知を進め、市民の地域活動やボランティア活動への参加を支援・推進する。
	福祉総務課	計画策定時の市民アンケート調査結果 [%]	15.6	—	—	—	—				
3	地域で取り組まれているサロンなどの活動数		—	—	100	102	104	増加	○	(高齢)令和4年度は住民主体によるアッピー元気体操をはじめとする通いの場の団体が立ち上がり、そのうち、高齢介護課の助成団体数は73団体に増加している。今後も住民団体の立ち上げを支援し、団体数を増やしていく。 (社協)R3年度に、補助金交付の要件緩和をし、実施回数にかかわらず、つながりを切らないための取り組みに対して49団体を支援した。今後は社協と地域包括支援センターが、市高齢介護課と情報共有をしながら、地域の活動者が活動しやすいよう連携し、支援していく。（※社協補助金、市補助金交付団体数の合算）	(高齢)アッピー元気体操などの介護予防を主体とした住民主体の団体（通いの場）について、令和5年度は82団体が上尾市地域介護予防活動支援補助金を活用している（うち新規8団体）。引き続き通いの場の立ち上げや運営について支援していく。 (社協)上尾市集いの場活動団体補助金及び市社協地域交流サロン事業補助金申請団体を対象に「つどいの場マップ」をR6年3月22日に発行した。（掲載団体数：133団体） 地域情報の周知として、市担当課、包括支援センター、支部拠点、民生委員、その他必要とする方へ広く配布するとともに情報を吸い上げ、社会資源の把握に努めている。また、サロンを立ち上げている団体や新規立ち上げ団体には、アウトリーチを含め相談・支援をしていく。今後は、「つどいの場マップ」の更新に向け媒体方法について市担当課と検討していく。
	高齢介護課 社会福祉協議会	地域で取り組まれている活動への助成団体数 [団体]	75	88	122	215					
4	地域福祉懇談会参加人数		—	—	増加	増加	増加	600	○	令和4年度についてもコロナ感染防止対策に留意しながら、地域活動の現状把握や今後の課題などについて、自治会単位での懇談会が開催出来るよう協力を得ながら実施した。昨年度と比べると、自治会単位での開催数は約50ヶ所となり増加した。懇談会での意見を支部の役員に報告し、地域課題を共有するなど積極的な取り組みが見られた。今後も、多くの方が参加できるよう支援していく。	地域に関係者が集まり地域の実情や課題などに触れ、話し合い、その課題解決のために取り組めることが利点であり、その地域に特色を出すことが出来る。反面、社協支部の活動は全地区（自治会）が同じ方向性をもって取り組めるような目標を掲げている為、支部圏域内において自治会ごとに活動の差が生じてしまっている所もある。今後の地域福祉懇談会の在り方について検討する必要がある。
	社会福祉協議会	地域福祉懇談会への参加人数 [人]	※コロナ 禍未実施	556	785	790					

（２）指標の達成状況

目標に達している指標	100%
------------	------

（４）今後の方針等（次年度以降の方向性）

アッピー元気体操などの介護予防を主体とした住民主体の団体についての立ち上げや運営の支援を図るとともに、「つどいの場マップ」を活用や地域で取り組まれている団体が活動しやすいよう支援していく。また、地域福祉懇談会参加人数をさらに増やしていくことにより、参加者の地域福祉への意識の醸成を図る。

第3次上尾市上尾市地域福祉計画・第6次上尾市地域福祉活動計画（指標評価）

基本目標３：誰もが役割を持つことができる地域づくり　－　取組７：地域福祉活動の活性化と担い手の育成
（１）指標の状況

【基本目標３－取組７】
（計画冊子：P86）

No.	指 標 名		(上段) 各年度目標値					達成度 評価	【令和4年度（※参考）】取組内容とその評価・今後の方針等	【令和5年度】取組内容とその評価・今後の方針等	
			R2	R3	R4	R5	R6				R7
	担当	指標の説明	(下段) 各年度実績値								
			R2	R3	R4	R5	R6	R7			
1	健康マイレージ新規参加人数		—	—	1,000	1,000	1,000	維持	×	専用のスマートフォンアプリや歩数計を使用してウォーキングを楽しく行い、健康づくりを進めていくことを目的とした「埼玉県コバトン健康マイレージ」事業に平成30年度から参加、登録者数は横ばい傾向。今後もより多くの方が事業参加できるよう、普及啓発に努めていく。※マイレージ事業は令和5年度をもって終了し、令和6年4月から新しい健康増進事業へ移行予定。（県の方向性）	※健康マイレージ事業は令和5年度をもって終了した。令和6年度は市独自の新しいアプリ構築等を行い、健康増進にむけて引き続き努めていく。
	健康増進課	新規で健康マイレージ事業に参加した人数 [人]	1,056	1,070	1,018	421					
2	健康長寿サポーター養成講座受講人数		—	—	130	140	150	150	○	出前講座等において「伸ばそう！健康寿命（健康長寿サポーター養成講習）」をテーマに設け、健康づくりの知識を身に付け、実践する仲間としての「健康長寿サポーター」が増えるよう取り組んでいく。	健康づくりの知識を身に付け、実践する仲間としての「健康長寿サポーター」が増えるよう取り組んだ。引き続き、出前講座等において「伸ばそう！健康寿命（健康長寿サポーター養成講習）」をテーマに設け、実施していく。
	健康増進課	健康長寿サポーター養成講座を受講した人数 [人]	119	210	220	251					
3	ゲートキーパー養成講座受講人数		—	—	85	90	95	100	○	地域や職場、教育、その他様々な分野において、身近な人の自殺のサインに気づき、その人の話を受け止め、必要に応じて専門相談機関につなぐなどの役割が期待される人である「ゲートキーパー」について、周知啓発に努めていく。	ゲートキーパーについてより理解を深めるために、講師を招き、全職員を対象とした動画研修を実施し（内容①自殺について〔約23分〕、②対応方法、自身のメンタルヘル스ケア方法〔約15分〕、③日常業務で出来ること〔約15分〕）、研修終了後もいつでも職員が閲覧できるサイトにアップしている。今後も引き続き、「ゲートキーパー」について、周知啓発に務めていく。
	健康増進課	自殺予防のゲートキーパー養成講座を受講した人数 [人]	70	162	231	107					
4	認知症サポーター養成講座受講人数		—	—	400	400	400	400	○	令和4年度は新型コロナウイルス感染症の規制が緩和されてきたことから、地域の通いの場等からの講座の依頼が増加しており、全て集合型で開催している。令和5年度は、小・中学校児童・生徒等に対して養成講座への参加を積極的に呼びかけていく。	認知症サポーター養成講座の開催希望のあった団体等に対して、キャラバンメイトのマッチングをするなどし、計29回の開催をし、参加者は計563名であった。また、認知症サポーターを受講した住民に対して認知症サポーターステップアップ講座を開催し、計2回（うち市主催1回）38名参加した。引き続き開催を支援していく。
	高齢介護課	認知症サポーター養成講座を受講した人数 [人]	380	112	387	563					
5	地域の担い手育成講座受講人数（累計）		—	—	520	580	640	700	×	今年度は、コロナ感染防止のため人数制限のもと、市内全域を対象とした「災害ボランティア養成講座」や「傾聴ボランティア入門講座」を実施した。今回は、自身のスキルアップを希望される方が多く、講座参加者が活動に結びつけることができなかった。今後は、支部における「あったか見守りサービス」の協力員不足の課題もあることから、第2層にてニーズ及び受け皿の把握を行い、具体的に必要な担い手の養成を行っていく。（ボランティア講座）	傾聴ボランティア養成講座を実施 全3日（6月21日、28日、7月5日）。受講者30人。その中でグループ化に向けて3回の立ち上げ準備会議を経て、9月から傾聴ボランティアグループ「ダンボ」として、新たにボランティアセンターに登録し施設での傾聴ボランティア活動をスタートした。また、災害ボランティア養成講座をR5年12月2日にR e V A復興ボランティアチーム・上尾の協力のもと実施。参加者 11人受講したが、養成後の活動に結び付けられていないのが継続課題となっている。
	社会福祉協議会	地域の担い手育成講座を受講した累計人数 [人]	458	※コロナ禍未実施	495	101					
6	ボランティア活動参加者数		—	—	3,400	3,800	4,200	4,600	×	幅広い世代の方々の活動のきっかけとなるよう、「あげお社協だより」やホームページ、ツイッターなどで周知し、夏休みのボランティア体験をはじめ、手作りボランティア活動や傾聴ボランティア入門講座、災害ボランティア養成講座などを開催した。ボランティア活動への関心が高まるような講座などを開催していく。	幅広い世代の方々の活動のきっかけとなるよう、「あげお社協だより」・ホームページ・X(旧ツイッター)などで、夏休みボランティア体験・子どもの居場所作りセミナーなどを周知し開催した。ボランティアへの関心が持てるような講座などを開催していく。
	社会福祉協議会	ボランティア活動保険加入者数と福祉サービス総合補償加入者数の合計 [人]	4,316	3,263	3,423	3,330					

（２）指標の達成状況

目標に達している指標	50%
------------	-----

（４）今後の方針等（次年度以降の方向性）

地域福祉活動の人材育成・活用を図るため、認知症サポーター養成講座受講や地域の担い手育成講座受講等の受講人数を増やすよう、ボランティアの関心が持てるような講座や地域活動の活発化に向けた周知啓発に努める。